

平成29年度第2回山梨県スポーツ推進審議会
会議録

1 日時 平成30年1月16日(火)10時00分～11時05分

2 場所 山梨県庁防災新館 3階 教育委員会室

3 出席者

(1) 委員 11名

秋山知子、飯田忠子、岩波輝明、大崎恵介、川上琴美、小林仁、仙洞田茂雄、
相馬知恵子、中村和彦、野呂瀬秀、萩原智子

(2) 教育委員会事務局

スポーツ健康課長、総括課長補佐、主幹、課長補佐2人、担当2名

4 傍聴者等の数 なし

5 会議次第

第2回審議会

(1) 開会

(2) 会長あいさつ

(3) 議事

(4) 閉会

6 議事

[審議事項]

県立八ヶ岳スケートセンターについて

(1) 施設の概要と最終評価

(2) 施設の現状分析

(3) 今後の施設のあり方と運営の方向性

7 議事の概要

(議長)

審議事項の「(1) 施設の概要と最終評価」について、事務局から説明する。

(事務局)

資料1、2及び八ヶ岳スケートセンターパンフレットにより、説明。

(委員)

後で説明されるのかもしれないが、資料1の2ページの施設の利用形態別分析によると、平成27年度にガクンと利用者数が増えており、それが最終的に18,260人の利用者数につながっていると考えられる。

このために、具体的に施設内で行われた改善策は、利用者増加に向けた取り組みはどういったものがあったのか。

(事務局)

平成24年度から利用者数が増えているということだが、いくつか改善点がある。まず、今日、各委員に配付したスケート靴の貸靴料の半額券が付いたパンフレットを、周辺の観光施設や高速道路のサービスエリアなどに設置し、それによって集客したということがある。

それと八ヶ岳スケートセンターに隣接して八ヶ岳アウトレットがあるが、アウトレットで買い物をしたレシートを持参すると、パンフレットと同じように貸靴料が半額になるということで、首都圏から来た方がアウトレットに行った後、入場してもらえということもある。

また、地元の北杜市が市内の小中学生のスケート教室を何回も開催してもらったことや、ここは400mトラックのリンクということで、国体競技のスピードスケートの練習場として、北杜市や市体協が働きかけて、スポーツ少年団の小中学生に数多く利用してもらったということもある。こういった経緯で利用者が増えたと分析している。

(議長)

次に、「(2)施設の現状分析」について、事務局から説明する。

(事務局)

資料1の2ページから7ページまで説明。

(委員)

7ページの収支状況の中で、平成26年度から収入の部分にその他というのがあるが、これはどのような収入なのか。広告とかなのか。

(事務局)

その他とは、自動販売機の収入である。

(委員)

質問ではないが、全国のプールを見てみると広告収入というものがあり、1枚5万円とか3万円とかで施設に貼っている施設が多い。県とか市には公共施設の規定というものがあるのかもしれないが、今後、ネーミングライツを含めて、広告料というところを考えると収入に入れられると、より良いのではないか。

今年の1月2日に、子どもと一緒にこのスケートリンクに行ってみたが、すごく景観がよくて気持ち良かった。施設を使用するに当たってもスムーズで、たくさんの方がスケートをやっているんだなと新鮮に感じた。

ただ、その景観が良いところに、広告看板はどうなのかと思う面もあるが、行った時点には、ここに広告看板をつけたらどうかなと感じた。景観との兼ね合いもあるので、その辺がうまくできたらと感じた。

(事務局)

ただ今、ネーミングライツ等の広告収入の話があったが、県全体として公の施設のネーミングライツで少しでも収入を増やしていこうという流れがあり、広告収入があれば少しでもコストカットできるので、考えて参りたい。

(委員)

27年度の収支のところ、人件費が前年度よりも2百万円近く上がり、翌年度は下がっている。それがかなりの収益の増加につながっている。

また、利用者数を見ると、27年度の無料利用者数がぐんと増えていたり、全体でも利用者数がぐんと増えているが、これは新たな事業に取り組んだりした結果なのか。

(事務局)

27年度に人件費が増えた理由は、この年はスケートの大会が多く開催されることとなったため、それにともなって管理している人を増やさなければならなくなり、人数を増やした結果、人件費が増えてしまったということであった。また、同時に利用者が増えたため、27年度の施設利用料は7百万円を超える結果にもつながったものである。

(委員)

スケート教室の利用で北杜市内の小中学校となっているが、県内で北杜市外の小中学校の利用はなかったのか。

(事務局)

北杜市以外の利用は無かった。

(事務局)

補足だが、北杜市以外の小中学校には、八ヶ岳スケートセンターのパンフレットを配布

する際に、各学校にぜひ八ヶ岳スケートセンターを利用してほしいとお願いをしているが、本県には小瀬スポーツ公園にアイスアリーナという施設があり、甲府市等はこうした近い施設に行くことが多い。指定管理者である県体育協会がスケート教室に来てくれるようお願いしたり、県教育委員会でもお願いしているところだが、なかなか学校の都合が付かない。このため、現在は、北杜市及び隣接の長野県の町村の利用となっている。

(委員)

武川小学校では、1, 2年生は小瀬のアイスアリーナを使ってスケートの初心者指導を実施し、周りに壁もあって風もなくそれほど寒くない室内でスケートをする。そして中学年以上は、八ヶ岳スケートセンターを使うというようなことをしている。

(事務局)

八ヶ岳スケートセンターは屋外ということなので、学校のカリキュラムの中で、悪天候になるとスケートができないという恐れがあるため、先ほどの1, 2年生は安全に、それ以上の学年は自然の中でスケートをさせたいということではないかと思う。

(議長)

次に、「(3) 今後の施設のあり方と運営の方向性」について、事務局から説明する。

(事務局)

資料1の8ページを説明。

(委員)

今後、この施設の修繕費が膨らむということはないのか。収支状況の中で、取り立てて支出が増えた年はないようだが、今後はどのようにしていくのか。

(事務局)

今後の施設修繕は、この施設には氷を造るための設備が設置されているが、それらのオーバーホールに年間6百万円ほど掛かるため、これを行っていけば、当面、八ヶ岳スケートセンターの運営はできると考えている。

もうひとつは施設の躯体だが、リンクはコンクリートでできており、定められた耐用基準があるが、今、特に壊れたという部分もないので当面は大丈夫だと考えている。

(委員)

私自身はこの施設を利用したことはないが、この施設を冬だけでなく夏も使えるのではないかと考えている。特に、この施設のある八ヶ岳周辺は、夏場の避暑地として有名

で、これだけ広い施設があれば、例えば合宿の誘致やコンサートの開催、アウトレットと連携してなにかできるのでないかとか考えるが、その辺の実現可能性はどうか。

(事務局)

本施設の夏場の利用を検討するため、軽井沢、茅野市、岐阜県恵那市のスケート場に行って状況を訊いてきた。これらの施設は、設置された時期が比較的新しいため、建設時にリンクの内側にフットサルコートを設置していたり、リンク表面がフラットなため夏場にインラインスケートを利用できるようになっているが、八ヶ岳スケートセンターはリンクの内側が調整池になっているため利用しにくかったり、リンク表面のコンクリートに凸凹があるため、インラインスケートも利用しにくいといったことがある。

(委員)

施設利用者に北杜市の小中学生がいるが、今後の推移の見込みを見ると確実に減っていく。そうした中で目標の設定に当たって、今後も人数の目標を設定するのか。

そうすると、これからは例えば個人利用等の目標を高めていくのか。その辺の見込みはどう考えているのか。

(事務局)

6ページの図9を見ると、次の指定管理期間を存続とするならば、平成31年から34年にかけて北杜市の小中学生は減少傾向にある。現在、年間2千人程度のスケート教室の利用があるが、まだ利用していない学校もあるので、北杜市に依頼してそういった学校も利用してもらって、目標として2千人を確保していく。

もうひとつは、スケート教室の利用は現状維持か少し増えるぐらいという中で、八ヶ岳周辺は冬でも観光客が来ている。八ヶ岳スケートセンターが営業している2ヵ月ほどの期間にも観光客が来ているので、そういった観光客をできるだけスケートセンターに導いて、利用者の拡大を図っていきたい。

(委員)

1月7日に中学生の大会があったのでスケートセンターに行ったところ、多くの観光客が来ており、いい施設だとあらためて感じた。

今日、各委員からいろいろな意見が出たが、この施設は県立の施設なのだから、県内の他の地域の意見も幅広く伺うことも必要なのではないかと感じた。事務局からの説明にもあったが、県内外の観光客や北杜市の小中学生のスケート教室、地元のスポーツ少年団が利用しているとのことだが、北杜市以外の県民の方は、この施設を県が維持運営していくことをどう思っているのか知る必要があるのではないかと思う。

(議長)

私はこの場の議長ではあるが、北杜市の住民であり、スケートセンターに家族を連れて行ったりしてきた。そんな中、今、子どもたちが寒いところで身体を鍛えるという冬のスポーツの教育環境が失われているように感じる。

こうしたことから、私は、雨風に耐えるとか寒いスポーツに挑戦して精神力をつけていくといったことを、スポーツ推進委員として推進している。ただ、最近の周りのスポーツ施設の環境が良くなってきているため、そういったことが体験できなくなっている。

整った施設が周辺にないため、長野県の富士見町や原村には、八ヶ岳スケートセンターを利用してもらっている。

私も、スポーツ推進委員681名で構成する山梨県スポーツ推進委員協議会の会長として、これから八ヶ岳スケートセンターをどのように推進していったら良いかということを知りたいと考えている。

そして、それを山梨県全体での意見として、次回のスポーツ推進審議会において、報告したいと考えているがいかがか。

(事務局)

施設の設置場所が小淵沢町ということで、それ以外の地域の県民がこの施設についてどう考えているかというは重要である。

スポーツ推進委員は全市町村にいるので、そういった方々の意見を集約して報告してもらえればたいへんありがたいと考える。

(議長)

では、次の審議会までに集約して報告させていただく。

(委員)

スケートセンター以外のことでもかまわないか。

(事務局)

どうぞ。

(委員)

スポーツボランティアという制度について話をさせてもらう。先ほどまでこの審議会では、良い選手を育てるための環境や施設として八ヶ岳スケートセンターのことを審議してきたが、それを支えるために養成したスポーツボランティアが、昨日、養成後初めてクインビーズの大会に関わることになった。そして、多くの人たちから賛同を得て、これから開催されるパラリンピックなどを支える人たちが数多く出始めている。

八ヶ岳スケートセンターでも、そういったスポーツボランティアが育つような環境とタイアップできれば嬉しいと思い、提案をさせていただいた。

(議長)

他の委員の方、何かあるか。

(委員)

今日いただいた八ヶ岳スケートセンターのパンフレットだが、楽しそうな施設ということは伝わってくるが、これは大人が見るパンフレットだと思う。私があこのリンクに行った時に、あの景観がすごく素敵だと感じた。このパンフレットには、そのことが少ししか書いていない。このリンクの素敵な景色を前面に打ち出して、青空の見える屋外のリンクということを前面に出した方が、自然を求める都会から来た人たちには受けるのではないかと思う。

(事務局)

貴重なご意見、ありがとうございます。私たちは、毎回、同じようなものを見ていたので、これが当たり前と思い込んでいた。確かに、あの場所に行くと青空があって自然に囲まれているので、それがわかるように工夫をしていきたい。

(議長)

北杜市としても自然を誇示しており、これは山梨県の財産でもあるので、県下の意見も反映しながら、事務局も進めてほしい。

(委員)

先ほど、指導者養成としてスポーツボランティアの話も出た。資料の中にあった有野選手も八ヶ岳スケートセンターで育って山梨学院大学の卒業生でオリンピックまで行ったが、そういった選手を育てる指導者養成が急務である。

指導者派遣を要請されても、甲府から日本スケート連盟普及部の資格を持った先生方が八ヶ岳スケートセンターまで行くという時間が取れないということがある。これからは、この地域に住む方たちにも滑れる方たちがたくさんいるので、ぜひ、指導のノウハウを伝えながら、膨らませていこうと考えている。

(事務局)

力強いご支援をいただいた。ありがとうございます。山梨県スケート連盟でも、八ヶ岳スケートセンターでの大会などで協力してもらえると聞いているので、皆さんで盛り上げて参りたい。

(議長)

貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。これからは少子化高齢化といっ

たことが言われているが、今、皆が何をなすべきかを問いながら、この審議会を進めて参りたい。そして、今年は、本県が国民体育大会スケート競技会の開催県でもあるので、スケート競技が天皇杯皇后杯に繋げていくように願いながら、議長を終わらせていただく。

(以上)